**ＥＳＤを反映させた通知表所見の書き方（例）**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　２０１６年１２月作成・２０２２年６月修正版・手島利夫

ＥＳＤを踏まえた学習指導要領の理念が明らかになり、教育課程編成の要点が示されました。

主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を通して生きる力を育むこと。知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていくこと等に努めるものとすることが示されています。

通知表への所見記入例をお示しします。ＥＳＤを踏まえた評価について次のような視点から捉えてみてはいかがでしょうか。

 ①　**児童・生徒理解と具体的な活動の記録**・・・基本です

　　・・・では、捕まえたヤゴをじっくりと観察し、雄と雌との体の違いに気づきました。また、学校の周りにはどのような種類のトンボがいるのかに関心を持って調べました。

　　子どもの興味や気づきを教師が的確に把握し、記録しています。

その所見を読むと、**誰の所見か名前や顔がすぐに浮かぶような記述**を心がけます。

　②　**学んだことを生活に活かそうとする**姿勢を捉える

　　ごみを減らすためには５Ｒに取り組むことが大切なのに、家ではRepairができてい

ないことや、給食を残しがちな自分のことなど、学習したことを生活に結びつけて

考えようとする姿が素晴らしかったです。

　　学びを自らの生活に戻して考えたり取り組んだりする姿を捉えることが、「**学んだこ**

**とで何ができるようになるか**」という視点を踏まえた活用能力の評価になります。

　③　**単元を通じた問題意識とその持続**・・・学びに火がついた様子を捉える

　　「私たちの暮らしと水」では、元の川の水と水道水を比べたときに、○○など数多くの疑問を出しました。学習を進める中でそれらの謎が明らかになり、なるほどと納得しながら学びを進めているようでした。

単元の導入で取り組んだ「学びに火をつける工夫」が生きています。単元を通した問題意識をもって、学びを進められ、子どもにとって学ぶ価値のある学習になります。「**主体的・対話的で深い学び**」につながる評価になります。

　④　**教科横断的な視点から児童の学びを見取る**

　　「私たちの暮らしと水」のまとめ新聞では、水の旅や使われ方を図や円グラフを用いて、読み手に分かりやすくまとめることができました。

学んだスキルを活用して分かりやすく伝える子どもの姿に、教科横断的な指導の成果がさりげなく表れています。このような作品等に表れている子どもの**『活用能力』**の例を学級全体に『優れた取り組みの例』として紹介していくと、高度な学びが広がります。この短い一文に職員の指導力の高さが表れています。

「**教科等間の往還**・カリキュラムマネジメント」の視点を踏まえた評価になります。

**通知表所見の表現〔語尾〕の工夫について**

★　あなたの所見にはどのような語尾がどのくらい使われていますか　★

―　語尾に気をつけて多様な伝え方や教育観の広がりを実感しましょう　―

１，児童の成長への看取り（教師が把握した事実を伝える）

　・・・（姿が）**見られました**　　　　・・・が**できました**

　・・・が**育っています**　　　　 　　・・・（努力を・取り組みを）**していました**

　・・・に**取り組んで**います　　　 　・・・○○**名人です**

　・・・（を考え）**行動して**います　　・・・（して）**くれました**

　・・・（として）**活躍**しました　　　・・・が**上達**しました

　・・・（積極的に）**行い**ました　　　・・・（優しさ・頼もしさ）**があります**

２，その事実を教師としてどう感じるか（教師の所見部分）

　・・・（成長を）**感じます**

　・・・（と工夫・努力していることが）がよく**わかります**

　・・・が**目立って**（**際立って**）いました

　・・・（のように）**見えます**

　・・・が**自信につながっています**

　・・・が友達のよい**手本です**

　・・・（様子が）**うかがわれました**

　・・・が**印象的です**

　・・・が**素晴らしい**です

　・・・して**輝いていました**

　・・・が**微笑ましい**です

３，それを教師としてどう支援しているのか・支援していくのか（教師の教育活動・抱負）

　・・・（に気をつけて）**見て**きました・見ていきます

　・・・（に）　**見守って**きました**・**いきます

・・・（に）　**声をかけて**きました・いきます

・・（努力を）**支援して**きました・いきます

　・・・（よう）**応援して**きました・いきます

　・・・（よう）**励まして**きました・いきます

・・・（よう）**方向づけて**きました・いきます

　・・・（よう）**褒めて**きました・いきます

・・・（よう）**評価して**きました・いきます

・・・（よう）**助言して**きました・いきます

・・・（に）　**指導して**きました・いきます

* 所見を読むと、教師が子どもの成長をどのように**把握**し、それを**どう感じ**、どのように**支援しようとしているのか**が見えてきます。１～３まで書ける教師でありたいですね。